

県東部海域におけるウシノシタ類の資源生態

水産研究所では平成22～24年度の間、岡山県東部海域において魚介類分布実態調査を実施してきた。小型底びき網漁業の漁場である沖合では、県内でゲタと呼ばれているウシノシタ類(イヌノシタ、アカシタビラメ、コウライアカシタビラメ)が優占し、様々な発育段階のものが生息していることが分かった。

イヌノシタについては6月下旬から7月下旬に瀬戸内市の黒島や長島沖の狭い海域で産卵期の成魚が漁獲された(図1)。水深は8～16mの比較的平坦な海域で底質は砂泥～泥であった。アカシタビラメについては7～9月に瀬戸内市沖の水深20m以浅の小型底びき網漁場全体で広く漁獲された。イヌノシタの産卵期は6、7月の短期間で、産卵場は比較的狭い海域であること、一方、アカシタビラメの産卵期は7～9月と長く、産卵場は沖合の広範囲な海域と考えられ、種による違いが見られた。

生み出された卵は海中を分離して浮遊し、ふ化した仔魚はしばらく浮遊生活を送った後、着底生活へと移行する。今回の調査では、全長40mm以上に成長した幼魚がイヌノシタでは8月下旬、アカシタビラメでは9月上旬から漁獲され始めた(写真1)。イヌノシタ幼魚は、9月に全長100mmサイズのもので200～600尾/km²の密度で水深4～15mの広い海域に分布していたが、アカシタビラメはイヌノシタより成長が遅く10月及び11月に全長100mm以下で、分布密度は概ね100尾/km²以下と低かった。幼魚の分布状況は産卵期における成魚の分布とは異なっていた。

次に、食性であるが、全長100mm以下の幼魚では両者ともカイアシ類など動物プランクトンの個体数割合が多かったが、成魚では、イヌノシタは二枚貝、ゴカイなどの多毛類、エビ類等を主に摂

餌しており、アカシタビラメでは多毛類の個体数割合がイヌノシタよりも少ない傾向がみられ、食性にやや違いがあった。

今後、調査結果を基に、底質改善などウシノシタ類の生息環境の整備について、検討して行きたいと考えている。(資源増殖室：佐藤)

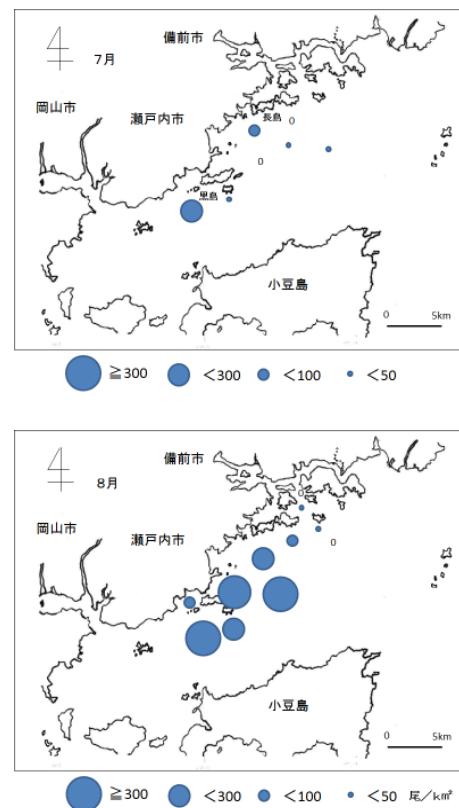


図1 産卵盛期における成魚分布(上段:イヌノシタ, 下段:アカシタビラメ)



写真1 イヌノシタ(左)及びアカシタビラメ(右)の幼魚